

2008年11月13日

mail ニュース

No.11・通巻199号

自治労連 都庁職

自治労連都庁職員
労働組合

発行人 米山隆史

TEL 03-5381-0250

08 秋年闘争 11. 13 第2次中央行動を行う

全労連・公務労組連絡会・公務部会は11月13日、生活危機突破、公務・公共サービスの拡充、地方確定闘争勝利をスローガンに、08秋年闘争における第2次の中央行動を展開しました。

世界的な金融危機や物価高騰などによる生活不安が続く下、労働者と国民の生活改善を求める闘いを前進させることを目的としています。麻生内閣に対して国民要求の実現を求めるとともに、早期の解散と総選挙を求めるとともに、公務公共サービスの営利企業化・商品化、公務員総人件費削減を許さず、公務公共サービスの拡充を求める闘いも重要な課題です。そのために全労連・国民春闘規模での運動を前進させ、時短勧告の早期実現、地方での確定闘争の勝利など、公務労働者の要求実現に向けた行動となりました。

自治労連は11時から、現業攻撃を許さず、非正規・関連労働者の要求実現と自治体病院を守り、介護労働者の処遇改善を求めて、総務省前で独自行動を行いました。

12時から、日比谷野外音楽堂に場所を移し、「なくせ貧困！生活危機突破11.13総決起集会」を開催、5500人が参加しました。参加者には八千代牛乳が配られましたが、用意した5000個がすべてなくなりました。

主催者として全労連の大黒議長（自治労連委員長）の挨拶の後、日本共産党志位委員長の挨拶に続き、社民党福島党首のメッセージが紹介されました。

激励に駆けつけた海老名香代子さんが登場すると、ひときわ大きな拍手とたくさんのカメラのフラッシュがたかれました。海老名さんは、医労連から頼まれて参加したと話をはじめ、息子の落語を聞きに行っていたとユーモアも交えながら、「私は看護婦（発言のママ）になりたかったが、戦争孤児になってしまい、かなわなかった。4度も入院して、お医者さんと看護婦さんに大変お世話になった。平和で、労働者が安心して働ける世の中になるよう、頑張ってください」とエールを送りました。

そのあと、参加している団体のリレートークが行われ、建交労、全医労、自治労連、東京土建、農民連、酪農家（牛乳の提供者）、全商連、新婦人、年金者組合、首都圏青年ユニオンから発言がありました。自治労連は川西副委員長が、ILO要請団報告について発言しました。首都圏青年ユニオンは山田書記長の報告の後、現在裁判を闘っている元グッドウィル労働者が発言しました。

集会アピールを採択した後、東京自治労連の仲間は財務省に移動して、要求行動を行いました。

その後、再び日比谷野外音楽堂に戻り、西幸門をスタート地点にして国会請願デモを行いました。

さらに国会議員に対して、「生活危機打開、雇用安定（後期高齢者医療制度の廃止、消費税を含む）」、「安心・信頼年金制度の確立」の内容で、要請行動を行いました。